

私はそんなに弱いのか 2コリント 12:5-10

2026. 9. 6、丘の上、NO. 781
春日部福音自由教会 山田豊

朝ドラ「風、薫る」の第21週で、太田光演じる遠藤平蔵が「けど、弱い人間じゃあないと思っているよ。こんな場所で生きていけるんだから、あんがい強いんじゃないかねえかねって」というセリフが、妙に心に残りました。

人の強さと弱さは紙一重、自分の弱さを認めるところに、実は強くされる秘訣がある。本日の聖書箇所 10 節の「私が弱いときにこそ、私は強い」というみ言葉が思い浮かびました。

パウロは、第3者の話のようにして、自らの体験を 1-4 節で証ししていると言われます。教会を迫害するものが回心して、地中海世界を回る伝道者となった、というのですからすばらしい劇的な回心物語です。今ではペテロと並んで、聖人、セントポーロと言われるほどになっています。

しかし彼には、肉体にとげがあったといいます。身体的な弱さ、障がいがあったことが推測されます。これは神から与えられた試練ではなく、「私を打つためのサタンの使い」とであると言っています。どんなに願っても、それが取り去られることはありませんでした。人には、どうすることもできない弱さや、思いがけないことでパウロの言うようなものを持つことがあります。パウロはこのような弱さを、キリストの弱さ、キリストの苦難に重ね合わせているのです(ピリピ 3:10)。

旧約時代のイザヤは、苦難を受けるしもべの姿を書いています。そこにある「彼」をイエス・キリストに置き換えて読むことができます。なぜなら、キリストこそ預言された苦難のしもべ、メシアであるキリスト、救い主であったからです。キリストはなぜ苦しみを受けたのか？それは私たちの罪を負ってくださったからでした。わが子が高熱を出して苦しんでいるさまを見たお母さんは、自分が代わってその苦しみを負って、子供を助けてあげたいと思うでしょう。神は、私たちの苦しみを見て、そのひとり子を遣わして、私たちの苦しみを代わりに負ってくださったのです。それゆえに、その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされたと言えるのです。

最近見かけerようになったヘルプマークは、着けている人が弱さや障害を持っていることを周りの人に知ってもらうためです。中途障害者になった一人女性の体験から生まれたものです。それを見た人が、ずっと手を差し伸べることができます。そんな人のやさしさに触れて、弱い私たちも、存外強くされているのかもしれない。

引用聖句

ガラテヤ 4:13,15 あなたがたが知っているとおり、私が最初あなたがたに福音を伝えたのは、私の肉体が弱かったためでした。それなのに、あなたがたの幸いは、今どこにあるのですか。私はあなたがたのために証しますが、あなたがたは、できることなら、自分の目をえぐり出して私に与えようとさえしたのです。

2 コリント 11:25-30 ローマ人にむちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度、一昼夜、海上を漂ったこともあります。26 何度も旅をし、川の難、盗賊の難、同胞から受ける難、異邦人から受ける難、町での難、荒野での難、海上の難、偽兄弟による難にあい、27 労し苦しみ、たびたび眠らずに過ごし、飢え渴き、しばしば食べ物もなく、寒さの中に裸でいたこともありました。28 ほかにいろいろなことがあります、さらに、日々私に重荷となっている、すべての教会への心づかいがあります。29 だれかが弱くなっているときに、私は弱くならないでしょうか。だれかがつまずいていて、私は心が激しく痛まないでしょうか。30 もし誇る必要があるなら、私は自分の弱さのことを誇ります。

ピリピ 3:10 私は、キリストとその復活の力を知り、キリストの苦難にもあずかって、キリストの死と同じ状態になり、

ローマ 8:17 子どもであるなら、相続人でもあります。私たちはキリストと、栄光をともに受けるために苦難をともにしているのですから、神の相続人であり、キリストとともに共同相続人なのです。

2 コリント 1:5 私たちにキリストの苦難があふれているように、キリストによって私たちの慰めもあふれているからです。

1 ペテロ 4:13 むしろ、キリストの苦難にあずかればあずかるほど、いっそう喜びなさい。キリストの栄光が現れるときにも、歓喜にあふれて喜ぶためです。

イザヤ 53:4-5 まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みを担った。それなのに、私たちは思った。神に罰せられ、打たれ、苦しめられたのだと。5 しかし、彼は私たちの背きのために刺され、私たちの咎のために砕かれたのだ。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされた。

アンブロワーズ・パレ(Ambroise Paré, 1510 年 - 1590 年 12 月 20 日)

フランスの王室公式外科医。近代外科の発展において重要な功績を残した。また、整骨術に関する著書はオランダ語訳を経て華岡青洲の手に渡り日本の外科医療に多大な影響を与えた。医学史家から「優しい外科医」と評される。銃創治療以外にも血管を直接糸で縛って止血する「血管結紮法」を編み出す外科治療を変革し、「近代外科学の祖」と讃えられている。パレの有名な言葉に「我包帯す、神、癒し賜う」という言葉がある。(フリー百科事典『ウィキペディア』より)